

第4回こどもの権利推進リーダー会議の実施結果について

実施日 令和7年6月4日(水)・6日(金) 18時から19時30分まで

会場 文京シビックセンター5階区民会議室C

1 参加者

2日程に分かれて実施し、1日目は14人、2日目は27人が参加した。

	中学2年生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生	合計
人数	4人	1人	3人	13人	20人	41人
割合	9.8%	2.4%	7.3%	31.7%	48.8%	100.0%



2 内容

事前課題としていたお題①、お題②について、グループ内で共有を行い、グループごとに「リーダーの声シート」を作成

お題① 「こどもの権利」の現状 → 現状をどうしていきたいか？
どんな自分でいきたいか？

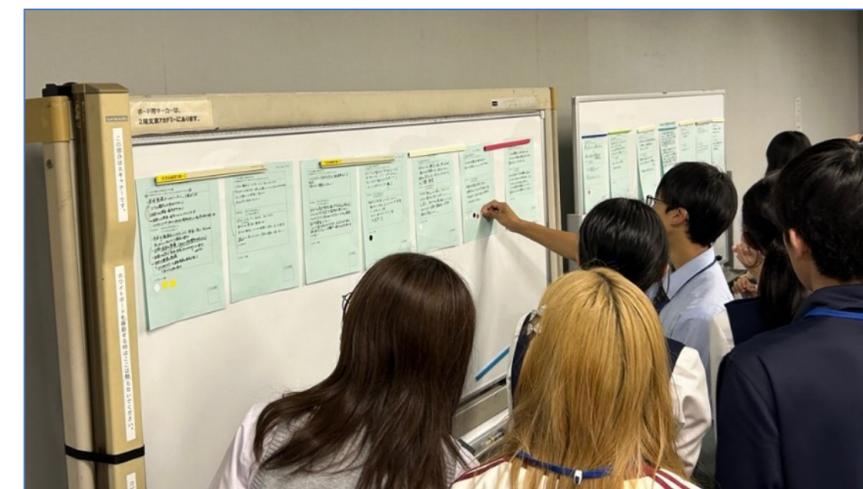
お題② こどもの権利を守るために、より良い状態にするために
自分たちが取り組むことは？
大人や社会に望むことは？

作成したシートを発表し、各自共感したシートに1人3枚の「いいねシール」を貼ってもらった。

今後、シートの内容をまとめ、条例前文に「子どもからの声」として掲載し、

条例を制定する背景や理由を示していく予定である。

※各グループの司会役については、東洋大学の学生にご協力いただいた。



3 当日の様子

事前課題に取り組んできた参加者が多く、たくさんの意見が出された。

グループとして意見を文章にまとめ、シートを作成するのは、難しい課題であったが、

精一杯取り組む姿が印象的で、全部で24枚のシートが作成された。

リーダーの声シート

シート 1-1

「こどもの権利」のことを、大人にも子どもにも認識してほしい。
学校の授業に取り入れてほしい（保健、生活、道徳など）
自治体や区に浸透してほしい（行政での話題などで知る機会をもっと増やしてほしい）

シート 1-2

学校は評価される場であり、家でも兄弟と比較されることがあるため、能力などではなく自分自身として個性を認めてくれる人との関わりが欲しい。
「こうあるべき！」という固定概念から自由になれるような、学校とも家とも異なるコミュニティとつながる機会がほしい。

シート 1-3

こどもがやりたいと思ったことを環境、経済的、一方的な考え方などから制限されることがある。
「こどもが意見を述べ、大人が聞く」という対話が成立していないこともある。
自分ののびしろを信じられる自分でありたい！！
経済的などの環境から制限されない社会になってほしい。
大人の方々（親、先生など）には聞いて見守る姿勢でいてほしい。
夢や頑張りたいことを尊重し、応援してほしい。

シート 1-4

家にも学校にもいたくない時がある。
逃げられる場所、安心できる場所がほしい。
勉強したくても環境が合わないと感じることもある。
市役所や区役所、公営図書館などにフリースペースや自習室がほしいです。
大人の目がある、安心できる空間があるといいなと思う。
できれば、学校と連携して出席、欠席を連絡できたり、自習していれば、出席扱いにしてほしいです。

シート 1-5

先生に悩みを相談した際に、他の先生に言わないでほしいと言ったけれど、翌日広まってしまう。信用がないと相談できないから相談したことをむやみに言わないでほしい。
〈自分たち〉声をあげる。
〈大人・社会〉顔がみえない（プライバシー保護）ように工夫したカウンセラーをつくってほしい。プライバシーを守ってほしい。

リーダーの声シート

シート 1-6

こどもの権利を知っている人自体が少ない。
先生や親が最後まで話を聞いてくれない。
身近の人から声をかけてみる。
大人が歩み寄る姿勢をもってほしい。
話し合いに第三者を入れてほしい。

シート 2-1

こどもの自尊心、向上心が下げられるような比較がされる。
自分らしさを全面的に出して自分の良い所を主張する。
私たち一人一人の個性と向き合ってほしい。

シート 2-2

大人はこどもを一つの固定概念として捉えていて不当な扱いを受けている。
こどもは大人に認めてもらえるような行動を心がけるが、私たちは失敗を恐れずに挑戦していきたい。
私たちは、意見をなるべく表明します。
大人には、こどもも一人の人として尊重してほしいです。
また、自分たちで挑戦、失敗をたくさんしたいので、それを受け入れてほしいです。

シート 3-1

大人（親、先生）は自分達の意見をこどもたちが納得するまで説明するべき。
自分たちが納得するまで大人に理由の提示を求められる人になりたい。
自分たちも大人の意見を受け入れるので、大人や社会はこどもたちが安心して意見を言える環境をつくってください。

シート 3-2

意見を言いづらい。言えたとしても受け入れられてもらいにくい。結局大人が決めてしまっている。
しっかりと意見を言え、聞いてもらえるような自分でいたい。
根拠を持ち、論理的に展望性をもって大人と話し合う。
フラットな目線に立って意見を聞き、自分たちの意見を尊重、理解してほしい。

リーダーの声シート

シート 4-1

意見を押しつけられたり、決めつけられたりするという現状がある。
大人と同じ立場で意見に耳を傾けてもらえるような環境づくり
社会の一員として意見を認められる社会

シート 4-2

夢を高らかに宣言できない。
自分らしくあることを否定されない環境づくり
一人の意見として認められること。

シート 5-1

環境整備がされていない。
(こどもの権利が知られていない。)
(相談できる機会、場所が少ない。)
相談できる環境、場所づくりをしていくべき。
いつでも、どこでも助けを求められる場所があるという安心感を持てる自分
学校で講演会をしてもらったり、授業で考えてみるといった色々な人に知ってもらう機会を増やす。
法律や条例の整備 (今やっている事が無駄にならないように)
相談できる窓口 (電話、役所、スクールカウンセラー、web サイト) を増やす。
学校や機関の整備 スクールカウンセラーや進路指導の機会を増やす。来てもらう回数を増やす。

シート 5-2

こどもの権利をより多くの人に知ってもらいたい。
守られている状況で時には厳しいことを伝えてくれるような大人がそばにいる環境で育ちたい。
ありのままの自分で生きたい。
ポスターやカードで広める。知ってもらう。
自分たちの意見を発信する (SNS)
こどもの権利について理解を深め、広げる教育
個人として見てもらいたい。意見を尊重して話し合いをしてほしい。

リーダーの声シート

シート 5-3

子どもだからと意見や意思など軽視されている現状
個人として尊重してほしい。

自分たちの意見や意思などが伝わるように努力する。

大人にはすぐに否定せず最後まで聞いてほしい。

大人がすべてを決めるのではなく、子どもの決定を最大限尊重してほしい。

大人が道を作るのではなく、子どもたちが作った道を通らせてほしい。

安全に通るための手助けをしてほしい。

シート 5-4

子どもの権利が守られていないかも

守られていないとき、止められない

子どもが権利を主張できる

大人に助けてもらえる

権利を保護してもらうため、権利の存在を子どもが実際に主張する場、大人に助けもらう場を用意する。

シート 6-1

「子どもの権利」という存在と内容が知られていない。

広めていきたい。

学校などの教育現場に携わる人、これから親になる人たちが学ぶ機会の設定

シート 6-2

大人が子どもに育てた恩を期待していることがある。

子どもが大人に恩返しをすることは義務ではない。

子どもが自主的に恩返しを行う場合は、子どもが大人になってからしてもよい。

シート 6-3

子どもが望むことができていない。(進路、習い事など)

話し合う場をつくってほしい。

リーダーの声シート

シート 7-1

親しみをもってもらう、身近に思ってもらう、イメージを変える。

「こどもの権利」や「条約」に対し、「とっつきづらい」や「面倒くさい」「難しそう」というイメージを持っている人や「こどもは大人の言うことを聞いていればいい」と思っている人がいる。

イメージ、意識を変え、身近に思ってもらいたい。

学校教育でしっかり取り扱うことによって、大人になったときに拒否感が生まれないようにしていく。

メディア、SNS を使ったり、ゲームアプリを開発したりして、「堅苦しい」と思っている人にも触れてもらう。

自分たちが「権利」や「条例」について堂々として、「こどもの権利」について友人や大人と話す。

シート 7-2

知識で留まっている、主体的に考えられていないこどもの権利について、自分自身の考えをもちたい。もってほしい。

積極的に意見を共有できるように、話し合いの場を設ける。それに積極的に参加。

老若男女が話し合えるようにする。

シート 8-1

「こどもの権利」が知られていないことによって、将来が狭められていたり、意見を言いづらくなっている。

わたしたちが「こどもの権利」を広めていくので、沢山のの人に知ってほしい。そして、こどものことを大切にしてほしい。

こどもの意見を発信していくので、意見を言いやすい環境をつくってほしい。

シート 8-2

固定化された概念の枠に押し込められ、一般化された特徴のない存在になること、個性の突出しないあり方が求められる。例) 学歴、職業

こどもを「個人」として捉え、その一人一人に合った適切なサポートを行っていくことを望む。

自分たちが取り組むこととしては、こどもたちが自発的、積極的に意見や権利を発信していく。

リーダーの声シート

シート 8-3

こどもの失敗が許されにくく、自分で成長していくことができない。

失敗も成長も見守ってほしい。

失敗するから大人の言いうとおりにするではなくて、自分で決めて成長していけるようにしてほしい。